

UHF帯共用検討AH資料

電気通信とITSの共用可能性について

2007年3月22日

株式会社NTTドコモ

UHF帯における電気通信とITSの共用可能性について

- これまでの情通審において、700MHz帯は900MHz帯と対で利用することが適当であることが答申されている。
- 900MHz帯は800MHz帯とともに周波数再編の過程であるものの、RFID等の既存システムが存在する。
- RFIDについては、950～956MHzのうち、953MHz、953.5MHzへ割り当てられている。また、これまでの情通審において、所定のガードバンド(2または7MHz)における所要離隔距離が示されている。
- 3G携帯電話の所要周波数は大きいものの、900MHz帯において700MHz帯と対の周波数を確保できない点を考慮すると、700MHz帯において電気通信が利用できる周波数帯域幅は50MHz程度となる。
- 対の周波数を確保できない10MHzについて、ガードバンドを含めたITSによる利用の可能性がある。

電気通信及び隣接帯域のシステムとのガードバンドについては、具体的なシステム(スペック)が確定した時点で検討が必要